

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	解剖学				学年	1年	期生
担当者					期別	前期	
単位数	2単位				講義・実習	講義	
時間数・授業回数	2時間×15回				専任・兼任	兼任	
実務経験	大学病院歯科口腔医療センター、大学医学部解剖学講座(肉眼臨床解剖部門)						
一般目標 (GIO)							
歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導を行うために必要な人体解剖学の基礎を理解する							
回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	5	1	水	1	総論、序章(p1~10)	解剖学の意義と歴史、人体の構成、身体表現の決まり、方向用語を理解する	
2				2	骨格系(p46~63)	骨の構造と機能、結合、骨化様式、体幹骨、上肢および下肢骨の種類と形態を理解する	
3	5	8	水	1	筋と運動①(p64~73)	筋の種類と特徴、運動方向、表情筋、咀嚼筋、頸部の筋を理解する	
4				2	筋と運動②(p73~79)	背部、胸腹部、上下肢の筋を理解する	
5	5	15	水	1	消化と吸収①(p84~108)	消化と吸収に関わる消化器の構造を理解する	
6				2	消化と吸収②(p84~108)	消化と吸収に関わる消化器の構造を理解する	
7	5	29	水	1	循環①(p109~112、121~131、139~146)	脈管系、心臓の構造、動脈と静脈系を理解する	
8				2	循環②(p147~155)	門脈系、胎児の循環系、リンパ系を理解する	
9	6	5	水	1	感覚 (p156~178)	体性感覚、皮膚および特殊感覚器の構造を理解する	
10				2	神経系(p179~211)	神経系の分類、各神経系の解剖を理解する	
11	6	26	水	1	呼吸 (p213~233)	呼吸器の構成、仕組みを理解する	
12				2	腎機能と排尿 (p234~245)	腎臓と泌尿器の構造、排尿の仕組みを理解する	
13	7	10	水	1	内分泌 (p246~257)	内分泌腺の種類、と各器官の構造を理解する	
14				2	生殖器 (p259~263)+振り返り	男性および女性生殖器の構造を理解する、これまでの講義内容を振り返る	
15	7	17	水	1	試験前講義+質疑応答	これまでの講義の要点を抑え、質疑応答を行う	
	7	26	金	2	テスト		
評価基準				教科書		参考書	
筆記試験				100%	医歯薬出版(株) 歯科衛生学シリーズ 解剖学・組織発生学・生理学		
平常点				0%			
				%			

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (13:00~14:30)

4限目 (14:40~16:10)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	生理学	学年	1 年 期生
担当者		期 別	前期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2時間×15回	専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学口腔病理学助手6年、歯科医院勤務4年、歯科医院 開業30年。		

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能とその仕組みを明らかにする学問である。口腔の機能を学ぶにあたり、先ず全身の機能を理解することを目的とする。全身機能との関連性を認識しながら学習してもらいたい。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	18	木	4	細胞と組織	細胞の構成と、構成体の機能、活動電位について説明出来る。
2	4	25	木	4	細胞と組織	細胞の構成と、構成体の機能、活動電位について説明出来る。
3	5	2	木	4	消化・吸収	消化・吸収の経路を理解し、消化液の分泌調節機能を説明出来る。
4	5	9	木	4	消化・吸収	消化・吸収の経路を理解し、消化液の分泌調節機能を説明出来る。
5	5	16	木	4	循環	血液の構成成分を類別し、その機能を説明出来る。体循環と肺循環を理解し、心臓の構造と機能を説明出来る。
6	5	23	木	4	循環	消化・吸収の経路を理解し、消化液の分泌調節機能を説明出来る。
7	5	30	木	3	感覚	全身と口腔の感覚のメカニズムを理解し、情報の伝達に付いて説明出来る
8		30	木	4	神経系	神経系を分類し、神経細胞の興奮と伝導の仕組みを説明出来る。
9	6	6	木	4	神経系	神経系を分類し、神経細胞の興奮と伝導の仕組みを説明出来る。
10	6	13	木	3	呼吸	呼吸器の構造と機能を関連づけ、呼吸運動の制御の仕組みを説明出来る。
11			木	4	排泄	腎臓の機能と循環系を関連づけ、尿生成の仕組みを説明出来る。
12	6	20	木	4	体温	体熱の産生と放散を理解し、体温調節について説明出来る。
13	7	4	木	4	内分泌・生殖	内分泌調節の仕組みを説明出来る。
14	7	11	木	4	内分泌・生殖	内分泌調節の仕組みを説明出来る。
15	7	18	木	4	まとめ・復習	
	7	26	金	3	テスト	
評価基準					教科書	参考書
筆記試験	80 %	医歯薬出版				
レポート	10 %	解剖学・組織発生学・生理				
平常点	10 %	口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (13:00～14:30)

4限目 (14:40～16:10)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	口腔生理学	学年	1 年 期生
担当者		期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2時間×8回	専任・兼任	兼任
実務経験	福岡歯科大学口腔病理学助手6年、樋口歯科勤務4年、くまもと歯科医院 開業30年。		

一般目標 (GIO)

口腔生理学は、口腔を構成する諸器官の生命現象、機能を研究し、それらに存在する法則性を明らかにする生理学の一分野である。複雑な口腔各器官の生理学的機能を理解することを目標とする。また、口腔顔面領域の諸機能は身体の他部位から独立して営まれているのではない。全身機能との関連性を認識しながら学習してもらいたい。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	17	木	4	歯・口腔・顔面の感覚	口腔顔面領域の感覚神経機構を理解し、歯痛や顎関節のメカニズムを説明出来る。
2	10	24	木	4	味覚と嗅覚	基本味と味物質を識別でき、味が受容される仕組みを説明出来る。
3	11	7	木	4	咬合と咀嚼・吸啜	下顎位を理解し、下顎反射や咀嚼筋機能を説明出来る。
4	11	14	木	4	咬合と咀嚼・吸啜	下顎位を理解し、下顎反射や咀嚼筋機能を説明出来る。
5	11	28	木	4	嚥下と嘔吐	嚥下と嘔吐の作用と機序、目的を説明出来る。
6	12	5	木	4	発声・発語	発声・発語に拘わる脳と音声器官の働きを説明出来る。
7	1	9	木	4	唾液	唾液の性状と成分を理解し、唾液の分泌機能を説明出来る。
8	1	23	木	4	まとめ	細胞の構成から、諸器官の機能を復習し、口腔諸器官の生理機能と結びつける。
	2	18	火	1	テスト	
評価基準					教科書	参考書
筆記試験	80 %	医歯薬出版				
レポート	10 %	解剖学・組織発生学・生理				
平常点	10 %	口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (13:00～14:30)

4限目 (14:40～16:10)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	生化学		学年	1 年 期生			
担当者			期 別	後期			
単位数	1 単 位		講義・実習	講義			
時間数・授業回数			専任・兼任	兼任			
実務経験	歯科大学口腔生化学講座の教員として39年間教育・研究に携わる。						
一般目標(GIO)							
<p>将来、歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理学を履修するために必要な基礎科学の一つとして生化学を修得する。生命現象を科学的・分子的レベルで理解する。生体を構成する物質や栄養素の代謝を理解し、生体内で働く酵素・補酵素の機能を理解し、それらによる代謝経路の生理的意味を説明できる。</p>							
回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1	10	2	水	2	生体の構成要素	生体を構成する物質や栄養素の種類と代謝について	
2	10	9	水	2	生体における化学反応	糖質と脂質とタンパク質の構造と種類について	
3	10	16	水	2	糖質代謝	糖質代謝の経路とエネルギー産生について	
4	10	23	水	2	エネルギー代謝	クエン酸回路、電子伝達系、グリコーゲン代謝について	
5	10	30	水	2	脂質代謝	脂質の分解、脂肪酸の酸化、脂肪の合成について	
6	11	6	水	2	タンパク質代謝	アミノ酸の代謝分解、尿素回路について	
7	11	13	水	2	核酸代謝	核酸の構造と代謝、複製、修復、組換えについて	
8	11	20	水	2	遺伝子の働き	RNAの働き(転写)とタンパク質合成(翻訳)について	
	2	17	月	2	テスト		
評価基準						教科書	参考書
筆記試験				%	医歯薬出版 栄養と代謝		
平常点				%			
				%			
				%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	組織・発生学		学年	1 年 期生			
担当者			期別	後期			
単位数	1 単位		講義・実習	講義			
時間数・授業回数	2 時間× 8 回		専任・兼任	兼任			
実務経験	大学での解剖学・口腔解剖学・発生学の講義を経験する教員が口腔・顎顔面解剖学について解説する。【大学歯学部・解剖学(6.5単位)、口腔解剖学(2単位)、発生学(1単位)】						
一般目標 (GIO)							
口腔組織発生学では、顔面・口腔・歯の発生の他、歯や歯周組織、顎骨、歯肉、口腔粘膜の構造について理解							
この科目の理解を通じて、歯と口腔の構造を三次元的に捉え、歯科衛生士としての臨床業務へと応用する。							
回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	11	11	月	1	組織発生学	人体の初期発生について形態学的に説明できる。顔面と口腔、歯、歯周組織の発生について形態学的に説明できる。	
2				2	口腔組織発生学① 顔面と口腔、歯、歯周組織の発生		
3	11	25	月	1	口腔組織発生学② エナメル質、象牙質	エナメル質、象牙質について形態学的に説明できる。	
4				2			
5	12	9	月	1	口腔組織発生学③ セメント質、歯根膜、歯槽骨	セメント質、歯根膜、歯槽骨について形態学的に説明できる。	
6				2			
7	1	27	月	1	口腔組織発生学④ 歯肉、口腔粘膜	歯肉、口腔粘膜について形態学的に説明できる。	
8				2			
	2	17	月	3	テスト		
評価基準						教科書	参考書
筆記試験	70%		<b>歯科衛生学シリーズ</b> 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬出版株式会社)			口腔学顔面解剖ノート (学健書院)	
レポート等	10%						
小テスト	10%						
平常点	10%						

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	口腔解剖学		学年	1 年 期生		
担当者			期 別	前期		
単位数	2 単 位		講義・実習	講義		
時間数・授業回数	4 時間× 15 回		専任・兼任	兼任		
実務経験	大学での解剖学・口腔解剖学・発生学の講義を経験する教員が口腔・顎顔面解剖学について解説する。【大学歯学部・解剖学(6.5単位)、口腔解剖学(2単位)、発生学(1単位)】					
一般目標 (GIO)						
<p>本科目では、歯牙解剖学ならびに口腔解剖学を学び、以下のことを理解することを目標とする。</p> <p>歯牙解剖学では、歯の種類や形態、歯列、さらにその異常を理解する。</p> <p>口腔解剖学では、顎顔面口腔領域の骨や筋、脈管、神経の支配について理解する。</p> <p>これら2つの科目の理解を通じて、歯と口腔の構造を三次元的に捉え、歯科衛生士としての臨床業務へと応用する。</p>						
回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	22	月	1	歯牙解剖学① 歯の形態の概要、永久歯1 切歯、犬歯	歯の形態の概要と永久歯(切歯、犬歯)の形態が説明できる。
2				2		
3	5	13	月	1	歯牙解剖学② 永久歯2 小臼歯、大臼歯、乳歯、形態異常、歯列と咬合	永久歯(小臼歯、大臼歯)、乳歯、歯の形態異常、歯列と咬合について形態学的に説明できる。
4				2		
5	5	20	月	1	口腔解剖学① 口腔、頭蓋骨	口腔と頭蓋骨の形態が説明できる。
6				2		
7	5	27	月	1	口腔解剖学② 顔面骨(上顎骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨)	顔面骨(上顎骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨)の形態が説明できる。
8				2		
9	6	17	月	1	口腔解剖学③ 顔面筋、咀嚼筋、舌筋、頸部の筋、筋隙、顎関節	顔面筋、咀嚼筋、舌筋、頸部の筋、筋隙、顎関節の形態が説明できる。
10				2		
11	6	24	月	1	口腔解剖学④ 口腔の脈管系	口腔の脈管系の形態が説明できる。
12				2		
13	7	1	月	1	口腔解剖学⑤ 口腔の脳神経	口腔の脳神経の形態が説明できる。
14				2		
15	7	8	月	1	口腔解剖学⑥ 口腔の脊髄神経と自律神経	口腔の脊髄神経と自律神経の形態が説明できる。
	7	29	月	1	テスト	
評価基準				教科書		参考書
筆記試験	70%		歯科衛生学シリーズ口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学		口腔学顔面解剖ノート (学健書院)	
レポート等	10%		(医歯薬出版株式会社)			
小テスト	10%					
平常点	10%					

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	口腔生化学		学年	1 年 期生			
担当者			期 別	後期			
単位数	1 単 位		講義・実習	講義			
時間数・授業回数			専任・兼任	兼任			
実務経験	福岡歯科大学口腔生化学講座の教員として39年間教育・研究に携わる。						
一般目標(GIO)							
<p>将来、歯科衛生士として根拠や理論に基づいた口腔保健管理学を履修するために必要な基礎科学の一つとして口腔生化学を修得する。歯と口腔に関して、歯牙・歯周組織の構造や唾液の機能を理解する。ペリクル・歯垢・歯菌の堆積物の性質を説明し、う蝕、歯周疾患との関係を考察する。</p>							
回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1	12	4	水	2	結合組織	歯周組織の構成成分と構築メカニズムを説明できる。	
2	12	11	水	2	歯牙の組成	歯の組成とその無機成分の石灰化に関与する有機成分	
3	12	18	水	2	石灰化の仕組み	血清中のカルシウム、歯と骨の石灰化について	
4	1	8	水	2	歯の脱灰と再石灰化	血清カルシウムの調節、歯の脱灰と再石灰化について	
5	1	15	水	2	唾液の組成と機能	唾液の組成と作用、成分の役割、唾液分泌について	
6	1	22	水	2	歯の堆積物	ペリクル、プラーク、歯石の生成と性質について	
7	1	29	水	2	プラークの生物活性とう蝕発症機構	プラークの種類、形成、酸生成の仕組みについて	
8	2	5	水	2	歯周疾患の発症機構と口臭	歯周疾患の発症機構、炎症反応、リボ多糖について	
	2	18	火	2	テスト		
評価基準						教科書	参考書
筆記試験			%	医歯薬出版 栄養と代謝			
平常点			%				
			%				
			%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	病理学・口腔病理学				学年	1 年 期生		
担当者					期 別	後期		
単位数	2単位				講義・実習	講義		
時間数・授業回数	2時間 × 15回				専任・兼任	兼任		
実務経験	口腔病理専門医・指導医および細胞診専門医を有し病理診断業務を実践する教員が、病理学の総論について解説する							
一般目標 (GIO)								
<p>病理学とは病気になった原因を探り、病気になった患者の身体に生じている変化が、どのようなものであるかを研究する学問分野であり、医学、医療になくてはならない情報を提供している。さらにその研究の成果が実際の患者の病気の診断や検診及び病気の予防にも活かされている。本科目では、病気にはどのような種類があるか、細胞・組織・臓器にどのような変化を生じるかを、肉眼的及び微細構造学的に理解し、個体に現れる症状や徴候についての知識を習得する。</p>								
回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標 (SBOs)		
1	9	26	木	1	病理学序論 病因論 遺伝性疾患	病理学の意義を説明する。病因と疾患の関係を説明し、病因の分類を述べる。遺伝子・染色体異常を説明する。		
2				2				
3	10	17	木	1	細胞、組織の障害 増殖と修復	代謝障害および変性を説明し、分類を述べる。壊死とアポトーシスを説明する。再生、萎縮、肥大、過形成および化生の定義を説明する。肉芽組織の特徴および生体での利用を説明する		
4				2				
5	11	14	木	1	循環障害 炎症	血液分布異常を説明する。閉塞性循環障害を説明する。炎症の定義を説明し、分類を述べる。特異性炎を説明し、分類を述べる。		
6				2				
7	11	28	木	1	免疫の病理 腫瘍	アレルギーの分類を述べる。自己免疫疾患および免疫不全症を説明する。腫瘍の定義を説明する。良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明する。腫瘍の組織学的分類を述べる。		
8				2				
9	12	5	木	1	病理概論(病因論、方法論)	種々の疾患で生じる臓器、組織、細胞での形態学的な変化を理解する。		
10				2	病理総論①(歯の発育異常、歯の損傷、修復)	歯の発育異常、歯の損傷、修復について理解する。		
11	12	12	木	1	病理総論②(循環障害、炎症、免疫)	循環障害、炎症、免疫について理解する。		
12				2	病理総論③(腫瘍)	腫瘍性病変について理解する。		
13	1	16	木	1	口腔病理①(歯の発育異常、歯の損傷)	歯の発育異常、歯の損傷について組織学的に理解する。		
14				2	口腔病理②(う蝕、歯髄病変、根尖部病変、慢性歯周炎ほか)	う蝕、歯髄病変、根尖部病変、慢性歯周炎について組織学的に理解する。		
15	1	30	木	1	口腔病理③(顎口腔の発育異常、顎骨・顎関節病変、口腔粘膜疾患)	顎口腔の発育異常、顎骨・顎関節病変、口腔粘膜疾患理解する。		
	2	18	火	3	テスト			
評価基準					教科書	参考書		
筆記試験	100 %				医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学			
	%							
	%							
	%							

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (13:00~14:30)

4限目 (14:40~16:10)



令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	微生物学・口腔微生物学	学年	1 年 期生
担当者	A・B	期別	後期
単位数	2 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2 時間× 15 回	専任・兼任	兼任
実務経験	A: 歯科大学基礎免疫学講義担当 B: 歯科大学大学院細菌学研究中		

一般目標 (GIO)

感染は原因となる病原体の病原因子と宿主の生体防御のバランスが関係していることを理解する。

微生物の病原因子および微生物の侵襲に対する各種生体防御機構を理解する。

微生物による口腔疾患を理解し、病原微生物を排除するための方法を理解する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	担当	行動目標 (SBOs)
1	10	8	火	3	微生物の分類	A	微生物の分類と特徴を理解する。
2				4	感染と免疫1: 定義		感染、免疫等の定義を理解する。
3	10	22	火	3	感染と免疫2: 免疫担当細胞	B	免疫系に関与する細胞を理解する。
4				4	感染と免疫3: サイトカインネットワーク		サイトカインネットワークの概要を理解する。
5	10	29	火	3	感染と免疫4: サイトカインネットワーク	B	各種サイトカインの働きを理解する。
6				4	感染と免疫5: 抗原抗体反応		抗原、抗体、これらの相互作用を理解する。
7	11	19	火	3	感染と免疫6: アレルギー	A	各種アレルギーの機序と疾患を理解する。
8				4	微生物学各論1: 真菌		真菌の概要、各種真菌の特徴を理解する。
9	12	3	火	3	微生物学各論2: ウイルス	B	ウイルスの構造や複製機序を理解する。
10				4	微生物学各論3: ウイルス		ウイルスによる疾患発症を理解する。
11	12	17	火	3	微生物学各論4: リケッチア・クラミジア	A	リケッチア・クラミジアの特徴を理解する。
12	1	14	火	3	口腔感染症1: う蝕	B	う蝕の発症メカニズムを理解する。
13				4	口腔感染症2: 辺縁性歯周病		歯周病の発症メカニズムを理解する。
14	1	28	火	3	口腔感染症3: その他	A	その他の口腔感染症を理解する。
15				4	滅菌と消毒および化学療法剤		各種滅菌、消毒、化学療法剤を理解する。
	2	20	木	1	テスト		
評価基準					教科書		参考書
筆記試験		100	%	医歯薬出版 微生物学			
			%				
			%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (13:00~14:30)

4限目 (14:40~16:10)



令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	薬理学・歯科薬理学	学年	1 年 期生
担当者		期別	後期
単位数	薬理学2単位(内 一般薬理学24時間)	講義・実習	講義
時間数・授業回数	2時間×15回	専任・兼任	兼任
実務経験	平成25年よりドラッグストアに勤務し、平成30年から保険薬剤師として調剤薬局・ドラッグストア・日本薬業研修センターで講師を兼任しています。		

一般目標(GIO)

薬理学は、薬物を生体に与えた場合に生体が現す反応を研究する科学であり、また疾病の予防・診断・治療に置ける役割を追求する分野です。薬物は疾病の原因除去や症状緩和に使用されるが、副作用を惹起しない薬物はない。薬物の有用なく副作用も理解したうえで、薬物の選択を行わなくてはならない。そのためにも、薬物の作用や身体における薬物の重要性は重要な事である。薬理学の基礎的な概念を総論を通じて学習し、各論において個々の薬理作用を理解する事を目的とする。

回数	月	日	曜日	限目	項目項目	行動目標(SBOs)行動目標(SBOs)
1	9	27	金	2	薬理学とは・薬物の作用・薬物動態	薬理学の基礎を捉え、薬物の作用・用量について理解する・薬物動態について理解する。
2	10	4	金	2	薬剤の適用方法・影響を与える要因・副作用・薬物の有害	適正方法を類別し、特徴を説明できる。薬効に影響する因子・副作用について説明できる。
3	10	11	金	2	医薬品を適用する際の注意・薬物の取り扱い・薬物と法律	薬物の有害作用について説明できる。医薬品を使用する際の注意点を理解する。
4	10	18	金	2	総論の復習・ビタミン・ホルモン	薬理学総論を総復習・ビタミン・ホルモンについて理解する。
5	11	1	金	2	末梢神経・中枢神経に作用する薬物	神経伝達メカニズム・作用する薬物について理解する。
6	11	15	金	2	循環器系・腎臓に作用する薬物	循環器・腎臓に関わる薬物について薬理作用と病態メカニズムを関連づけて説明できる。
7	11	22	金	2	呼吸器・消化器系・血液系に作用する薬物	呼吸器・消化器系・血液系に関わる薬物について薬理作用と病態メカニズムを関連づけて説明できる。
8	11	29	金	2	局所麻酔について・炎症と薬	局所麻酔薬を分類分けを理解する。抗炎症薬について作用機序を説明できる。
9	12	6	金	2	抗感染薬について	抗感染薬の作用機序について説明できる。
10	12	13	金	2	総論・血液系・抗炎症より練習問題を解く	国家試験に向けて実際に問題を解いていきます。知識をどのようにアウトプットするのか体
11	1	10	金	2	代謝性疾患治療薬	糖尿病・骨粗鬆症治療薬の作用機序について説明できる。
12	1	17	金	2	免疫と薬・悪性腫瘍と薬	免疫・悪性腫瘍に関わる薬物の作用機序について説明できる。
13	1	24	金	2	消毒薬に使用する薬・う蝕予防薬	消毒薬・う蝕予防薬の作用機序について説明できる。
14	1	31	金	2	歯内療法薬について	歯周病・顎・口腔粘膜疾患の医薬品について理解する。
15	2	7	金	2	歯周病患者治療薬について・顎・口腔粘膜疾患と薬	歯周病・顎・口腔粘膜疾患の医薬品について理解する。
	2	20	木	2	テスト	
評価基準					教科書	参考書
筆記試験	100 %	医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学			薬剤師国家試験対策マニュアル【虹本】薬理学 薬物動態学・病理病態学	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	口腔衛生学				学年	1年	期生
担当者					期別	通年	
単位数	3単位				講義・実習	講義	
時間数・授業回数	22時間・11回				専任・兼任	兼任	
実務経験	歯科大学の教員として附属病院での臨床経験および県庁での勤務経験を活かして講義内容に反映						
一般目標 (GIO)							
口腔の健康を保持増進させる理論と方法を理解し、口腔疾患の予防法を習得する。これらの知識を活かして専門家としての基本的な口腔保健管理を実践できるようになる。							
回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標 (SBOs)	
1	5	14	火	3	Ⅱ編1章 総論	歯と歯周組織の構造と働きを説明できる。	
2				4	〃	歯・口腔の付着物・沈着物を説明できる。	
3	5	28	火	3	Ⅱ編3章 口腔清掃	口腔清掃法の種類を説明できる。	
4				4	〃	歯磨剤および洗口剤の種類を説明できる。	
5	6	11	火	3	Ⅱ編2章 歯科疾患の疫学	う蝕の疫学的特性を概説できる。	
6				4	〃	歯周疾患の疫学的特性を概説できる。	
7	6	14	金	4	Ⅱ編4章 う蝕の予防	う蝕発生のメカニズムについて説明できる。	
8	6	18	火	3	Ⅱ編4章 う蝕の予防	う蝕発生要因に対する予防法を説明できる。	
9				4	I-1 総論	健康の定義と国民の権利について説明できる。 予防医学の概念を説明できる。	
10	7	2	火	3	I-2 疫学	疫学研究の方法をそれぞれ理解できる。	
11			火	4	I-3 人口	人口統計における静態および動態統計について説明できる。	
	7	29	月	2	テスト		
筆記試験							
平常点				%	医歯薬出版 保健生態学 第3版		
				%			
				%			

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (13:00~14:30)

4限目 (14:40~16:10)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	口腔衛生学	学年	1 年 期生
担当者		期別	通年
単位数	3 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	24時間・12回	専任・兼任	兼任

実務経験

大学病院での勤務経験を有する歯科医師が、臨床現場での経験を踏まえ、口腔の健康と予防について基礎を学ぶ授業を担当する。

一般目標(GIO)

歯・口腔の機能維持・増進について理解し、個人や集団を対象とした口腔保健管理と予防について知識を修得する。

回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	27	金	3	Ⅱ編5章 フッ化物によるう蝕 予防法	フッ化物の毒性を認識し、正しい対処法を理解できる。
2				4	〃	フッ化物応用によるう蝕予防メカニズムを説明できる。
3	10	4	金	3	Ⅱ編6章 歯周疾患の予防	歯周疾患の種類と原因を説明できる。
4				4	〃	歯周疾患の予防と治療における処置を説明できる。
5	10	11	金	3	Ⅱ編7章 その他の疾患・異常 の予防	口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症についてそれぞれ要因・ 予防法を述べる。口臭の分類・原因物質・予防法を述べる。
6				4	Ⅱ編8章 ライフステージごとの口 腔保健管理	母子口腔保健・成人期・老年期における口腔保健管理の特徴を 述べる。
7	11	1	金	3	I編4章 健康と環境	環境の概念を理解し、地球環境の変化と健康への影響を述べ る。
8				4	〃	感染物処理の概念を理解し、バイオハザードマークを分類、説明 する。
9	11	15	金	3	I編5章 感染症	感染成立の3要因を述べ、感染症予防の概念を説明する。
10				4	〃	主な感染症について、感染経路・特徴を述べる。
11	11	29	金	3	I編6章 食品と健康	食中毒を分類し、それぞれの特徴を述べる。食事バランスガイド について図示し、説明する。
12				4	これまでの復習・まとめ	これまでの授業内容に沿った小テストを実施、自身の理解度を把 握する。
	2	20	木	3	テスト	
筆記試験				80%	医歯薬出版 保健生態学 第3版	
平常点			20%			
				%		
				%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)

令和6年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	衛生行政・社会福祉		学年	2 年 期生		
担当者			期 別	前期		
単 位 数	2単位		講義 ・ 実習	講義		
時間数・授業回数	2時間×15回		専任 ・ 兼任	兼任		
実務経験	2012～2017年美容専門学校・衛生管理、夏季国試対策講師。2015年～2022年専門学校・口腔生理学、直前国試対策講師。2002年～歯科医院 院長。					
一般目標 (GIO)						
医療（歯科医療）は法のもとに行う必要がありますが、教科書に掲げられた「保健・医療・福祉の制度」はその基礎となります。この授業ではそれらに関する多くの法律や制度を学びます。その学びは時代の流れにより最新の知見を学ぶことが重要であるため、最新版の教科書は大変役立つものになります。そしてそれらの知識は実際に歯科衛生士業務を行うまでに学んでおく必要があります。また一社会人として知っておく必要があるものです。現段階ではそのように基礎知識の見聞、習得を行っていきませんが、国家試験対策として過去問題にも触れ、慣れるように授業を進めていきます。						
回数	月	日	曜日	限目	項目	行動目標 (SBOS)
1	4	12	金	2	1章わが国の医療制度と歯科衛生士 P1-13	保健・医療・福祉の制度を学修する目的を説明でき、歯科衛生士の専門性と就業人数とその増加の理由が説明できる
2	4	19	金	3	同 P14-31	歯科医師法・歯科衛生士の法、定義と業務を説明できる
3	5	10	金	3	同 P32-43	免許の交付、届出・歯科衛生士名簿の登録について理解できる
4	5	17	金	3	同 P44-52	歯科衛生士国家試験、業務と責務を説明できる
5	5	24	金	3	同 P53-57	歯科技工法について理解できる 小テスト①
6	6	7	金	3	2章医療関係職種P58-66	歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療関係職種をあげることができ、保健師助産師看護師の業務の概要、それらの法について理解できる
7	6	14	金	3	同 P67-76	臨床検査技師等の業務の概要、それらの法について理解できる
8	6	21	金	3	3章その他関係法規P78-9	地域包括ケアシステムの定義と植木鉢の図が説明でき法規を概説できる
9	6	28	金	3	同 P90-98	歯科口腔保健の推進に関する法律を理解できその他衛生法規を概説できる
10	7	5	金	3	同 P98-103	薬事に関する法規を理解できる 小テスト②
11	7	12	金	2	4章社会保障P104-115	憲法25条で示す社会保障が列挙でき医療・介護保険について概説できる
12	9	13	金	2	同 P115-127	年金保険、労働法規・労働保険について概説できる
13	9	20	金	2	同 P127-141	歯科雇用保険、労災保険、歯科衛生士に関する社会福祉について概説できる
14	9	27	金	2	5章医療の動向P143-152	国民の受療状況、歯科診療所数推移、歯科医療従事者数推移、国民医療費、歯科診療医療費の推移について説明できる
15	10	4	金	2	1-14回補足とまとめ	1-14回授業の予備・補足 小テスト③
	10	29	火	2	定期テスト	
評価基準			教科書			参考書
筆記試験	100	%	歯科衛生学シリーズ			
平常点		%	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2保健・医療・福祉の制度			
		0%				
		0%	(医歯薬出版)			

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (13:00～14:30)

4限目 (14:40～16:10)